

消防団員意識調査アンケート 結果報告書

令和 8 年 8 月
秋田県消防保安室

I 調査の概要

- 1 調査目的： 秋田県内の消防団員を対象に、現在の消防団活動に対する意識や課題、今後の維持・拡大に向けた意向を把握するため。
- 2 調査対象： 秋田県内の全消防団員
- 3 調査方法： WEBアンケート（グーグルフォーム）、紙アンケート併用
- 4 調査期間： 2026年05月22日 ～ 2026年06月19日
- 5 回答状況： 有効回答数 2,791人（男性：2,707人 女性：75人 不明：9人）

II 調査結果の概略 本調査結果からの主なポイントは以下の通りです。

【1】全世代共通で感じる課題は「深刻な高齢化と若手不足」による組織維持の危機

消防団が感じる課題として、回答者の81%が「高齢化・若手不足」を挙げ、全世代で圧倒的首位となりました。団員の枯渇が組織存続の危機に直結している現状が浮き彫りとなっています。

【2】「操法大会・訓練」に対する過重な負担感と見直しへの強いニーズ

平常時の活動で最も負担感が大きいのは「訓練（ポンプ操法等）」であり、全体の68%が負担と回答しました。操法大会のあり方についても「技術が磨ければ大会自体は不要であり見直すべき」が58%と過半数を占めており、実戦から乖離した訓練スタイルが団員に大きなプレッシャーを与えています。

【3】現役・子育て世代（20～40代）の生活スタイルとの乖離

「本業や家庭との両立」に負担を感じる回答が56%、「時間的拘束（夜間・休日）」が54%に達しました。特に組織の中核を担う30～40代において従来の活動頻度や拘束時間がワークライフバランスを圧迫し、活動継続や両立を困難にさせています。

【4】時代にそぐわない組織風土と不透明な処遇に対する不満

自由記述等では、個人支給された手当の再徴収（分団費・飲食代化）や、強制的な飲み会・集金といった旧来の慣習に対する不信・不満が見られました。

【5】世代間の意識ギャップによる勧誘・紹介機能の不全

ベテラン層ほど「操法大会は重要・必要である」と回答する割合が高くなる傾向がある一方（60代：51.8%、30代：30.9%）、若手・現役世代ほど実戦性の高いスキル向上を求めています。自由記述にも「入団希望者に大会があると説明すると入団を拒否される」というケースがあり、現状のままでは現役団員や親世代が自信を持って若者を勧誘できない悪循環に陥っています。

【6】消防団の魅力再発見と入団促進に向けた糸口

活動のやりがいとして「異業種・異世代との交流」を挙げる回答が全世代で最多（52%）となったほか、20代では「救助活動」や「実用的な技術」を学びたいという意欲も見られます。また、消防団活動の満足度が低い層であっても「災害出動」や「警戒活動」自体の負担感は低く、本来の防災活動に対する意欲は維持されています。

【7】持続可能な消防団の構築に向けた体制転換の必要性

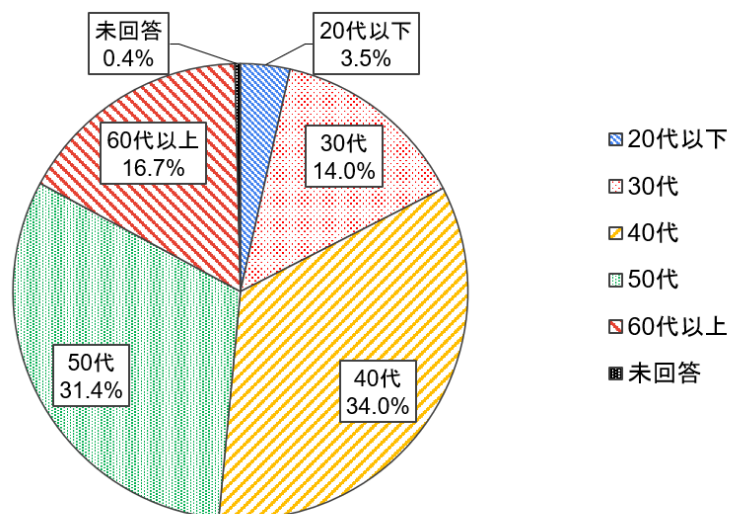
団員の確保や退団防止には、行政の支援施策だけでなく、消防団自らの改革が不可欠です。時代の変化に合わせ、操法大会や訓練、組織運営のあり方を根本的に見直すことが急務となっています。

III 回答者の属性

■ あなたの年代を教えてください。

【回答の特徴】

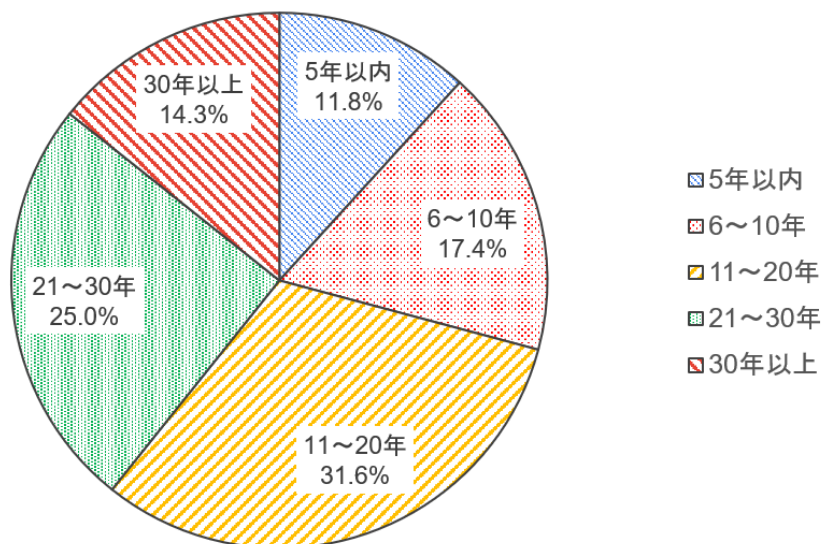
40代・50代が約65%を占め、60代以上も含めると8割を超える一方、20代以下は3.5%に留まる。



■ 消防団員としての経験年数を教えてください。

【回答の特徴】

「11～20年」が最多で中核を担うベテラン層が多い一方、「5年以内」の新規層は11.8%と少ない。



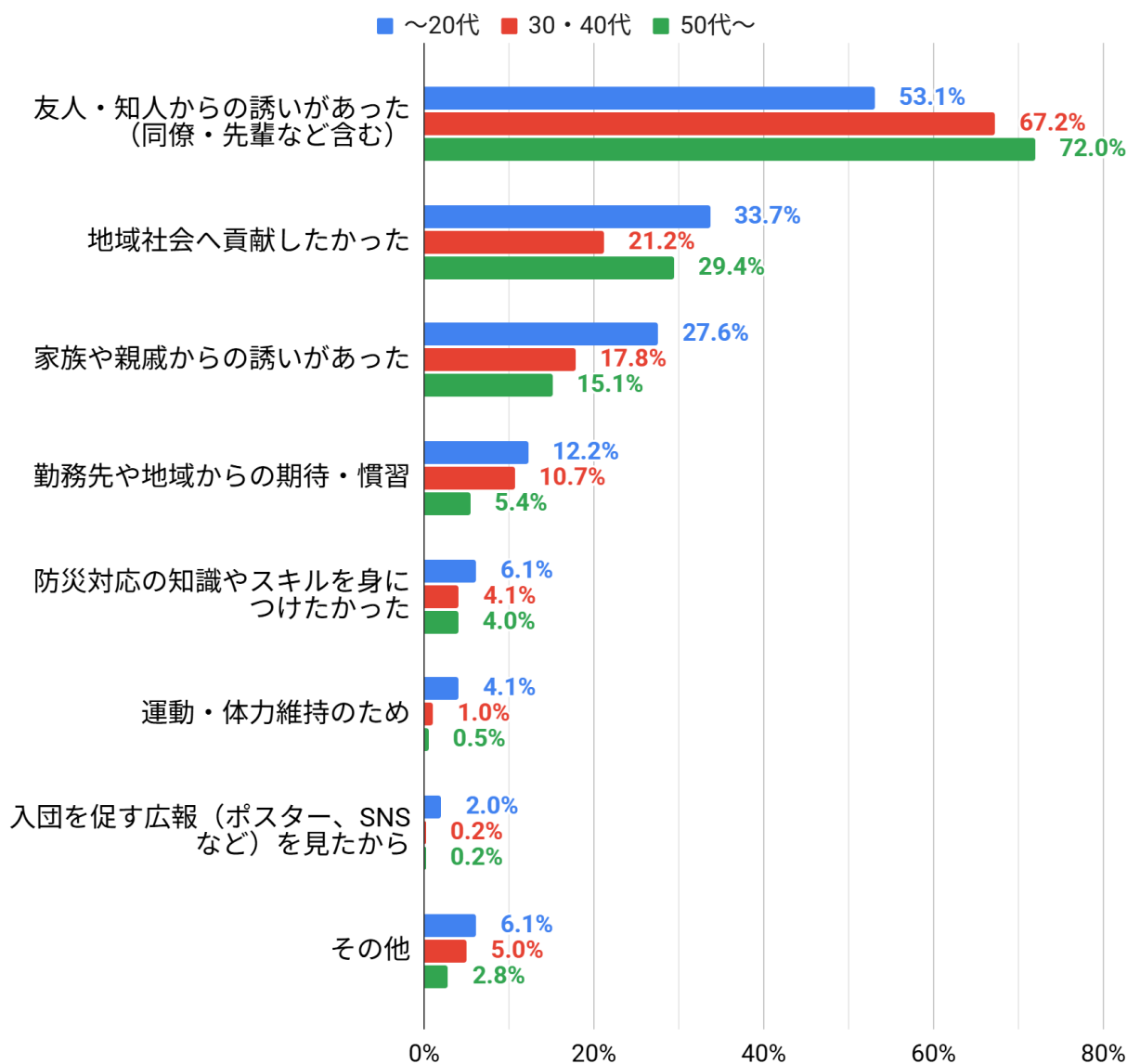
IV 調査の結果

以下、各設問の回答結果（全回答および年代別）と、その特徴を示します。

■ 6. 消防団に入団したきっかけは何ですか？（複数選択可）

【回答の特徴】

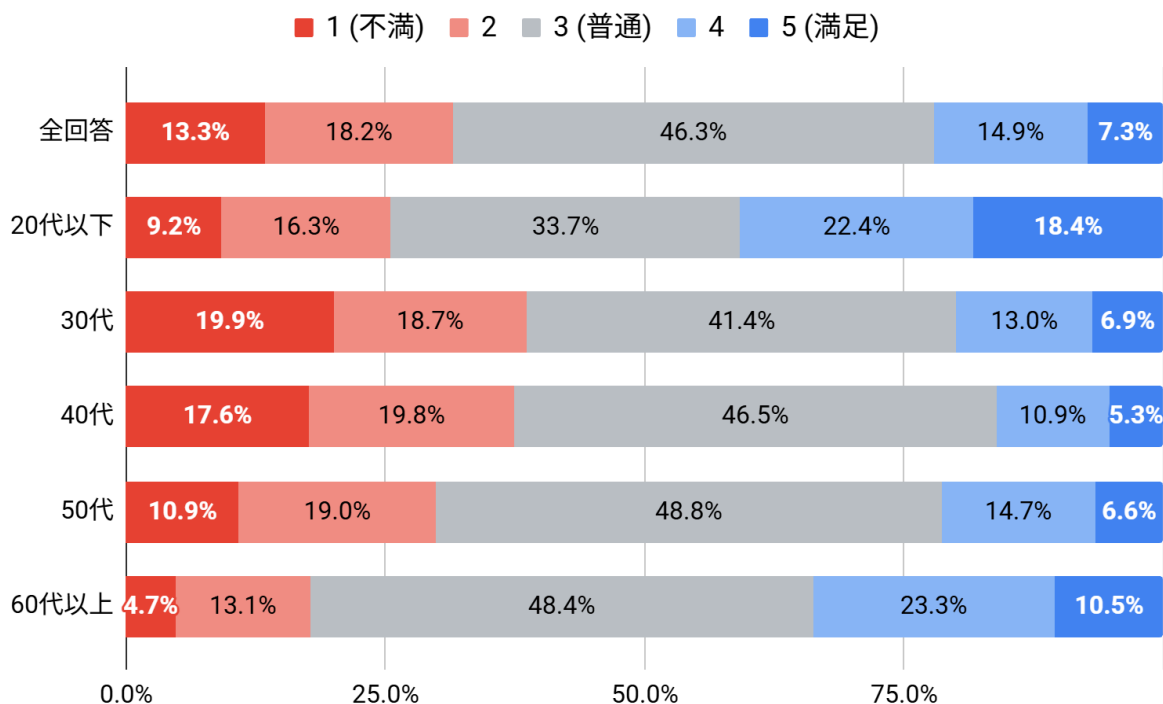
全年代で「友人・知人からの誘いがあった（同僚・先輩など含む）」が約7割でトップ。次いで「地域社会への貢献」が続く。自発的な入団よりも地域の人間関係や縁故による勧誘に大きく依存している。「入団を促す広報」は低く、広報の効果は小さい。



■ 7. 現在の消防団活動全体に対して、どの程度満足していますか？

【回答の特徴】

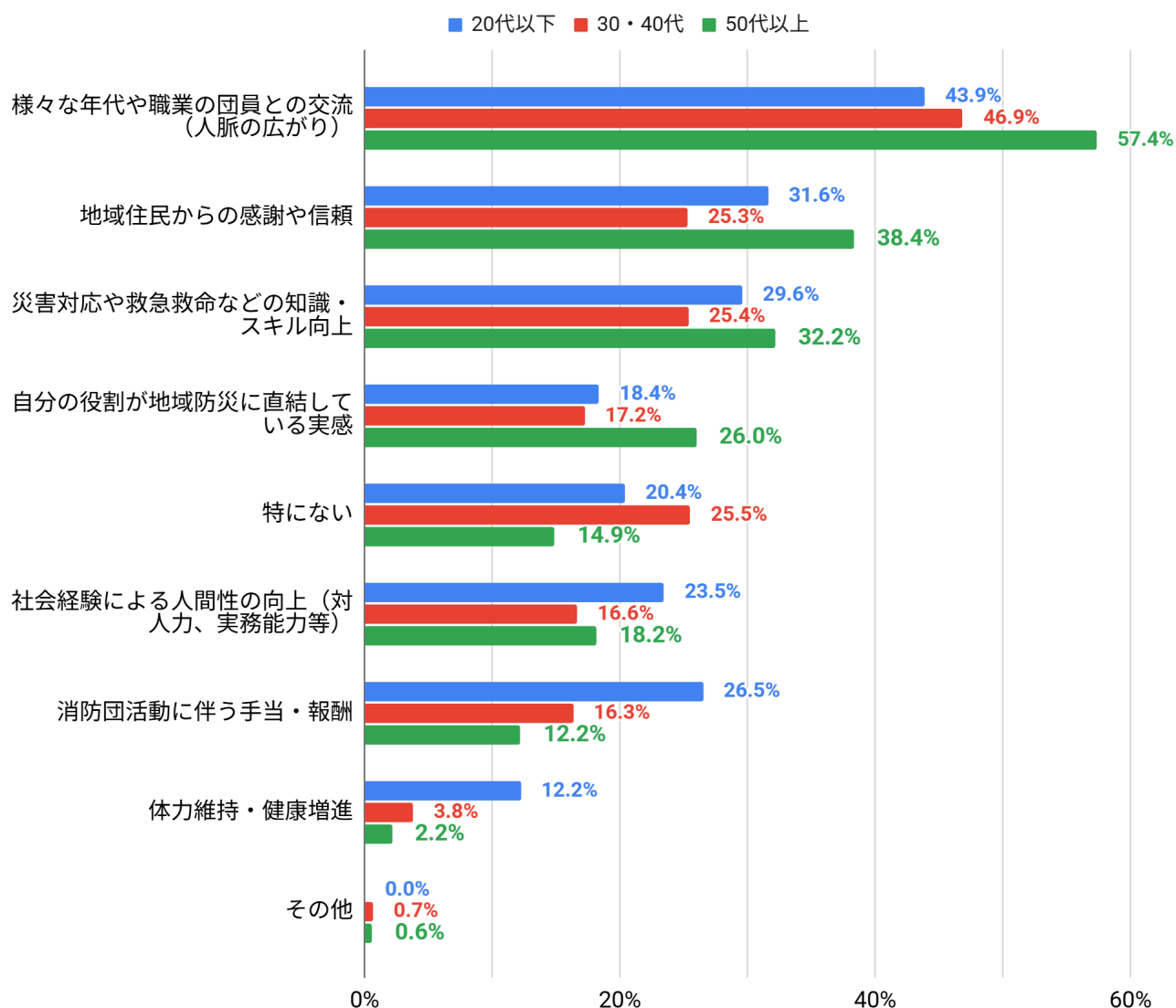
「普通」が46.3%で最多だが、不満層（1・2：31.5%）が満足層（4・5：22.2%）を上回る。特に活動の中核である30代・40代で不満を抱える割合が多い。



■ 8. 消防団活動を通じて「やりがい」や「特に良い」と感じることは何ですか？ （複数選択可）

【回答の特徴】

「様々な年代・職業の団員との交流」が約5割と、地域での人脈形成が最大のやりがいとなっている。また「地域住民からの感謝」も高く、人間関係と地域貢献が活動の主な原動力である。中堅層の30～40代では「特にない」と答えた割合が他の年代よりも高く、他の設問では逆に低い傾向がある。



■ 9. 消防団活動の負担感はどの程度ですか？

【全体の回答の特徴】

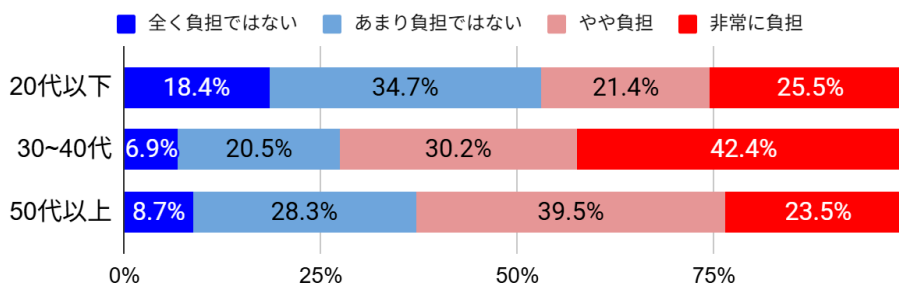
10個の項目についての負担感の回答では、負担と感じる順に、「訓練(ポンプ操法、初期消火など)」「本業と家庭との両立」「時間的な拘束(夜間・休日)」の「非常に負担・やや負担」と答えた割合が高い。一方で「災害時の出動」「地域行事への協力」は負担感が低くなっており、地域を守る活動への意欲は維持されている。

9-1 「訓練（ポンプ操法、初期消火など）」

【回答の特徴】

「非常に負担」「やや負担」の合計が68.0%に達し、全項目中で最大の負担となっている。特に30代・40代の現役世代では約7割強が負担を感じており、消防団活動の大きな課題となっている。

訓練（ポンプ操法、初期消火など）

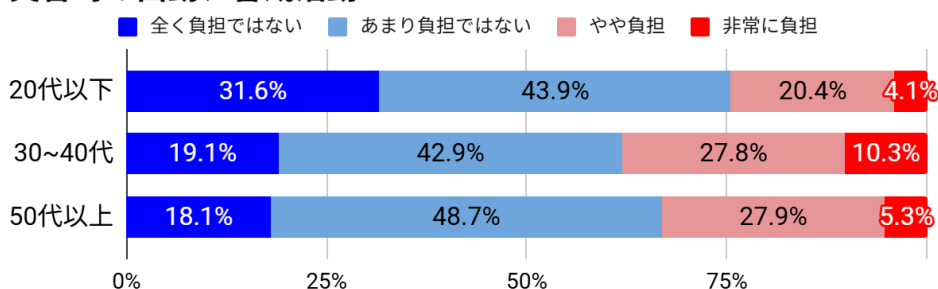


9-2 「災害時の出動、警戒活動」

【回答の特徴】

「負担ではない」層が約6割強を占める。消防団の本来の目的である災害対応については、他の活動（訓練や会議）と比較すると団員の意欲は高い。

災害時の出動、警戒活動

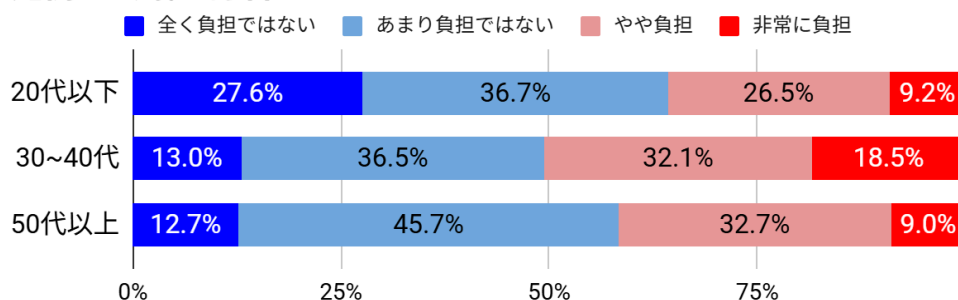


9-3 「定例会議・打合せ」

【回答の特徴】

全体で約5割が負担を感じている。特に30代・40代の負担感が高く、定例的な集まりが働き盛り世代のワークライフバランスを圧迫する要因の一つになっていると示唆される。

定例会議・打合せ

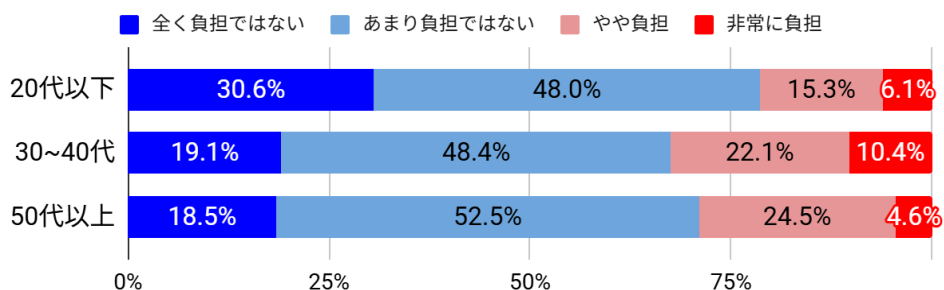


9-4 「地域行事への協力」

【回答の特徴】

約7割が「負担ではない」と回答しており、地域行事への協力に対する抵抗感は比較的低い。消防団が地域で大きな役割を果たしていると思われる。

地域行事への協力

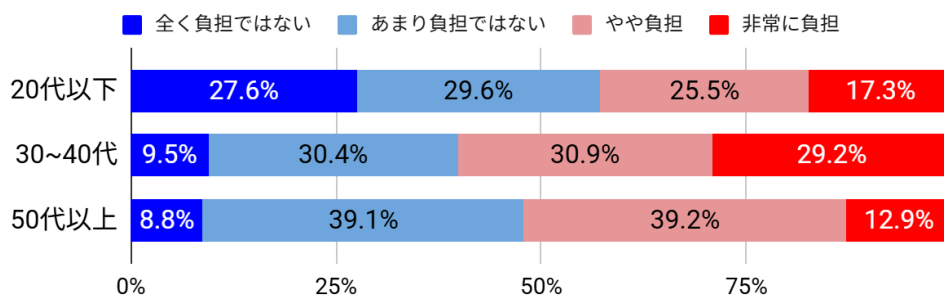


9-5 「本業や家庭との両立」

【回答の特徴】

全世代を通じて負担感は高くなっているが、特に30代では「非常に負担」が3割を超え、子育てや本業が多忙な世代にとって、現在の活動頻度や拘束時間が実生活と両立困難になっている。

本業や家庭との両立

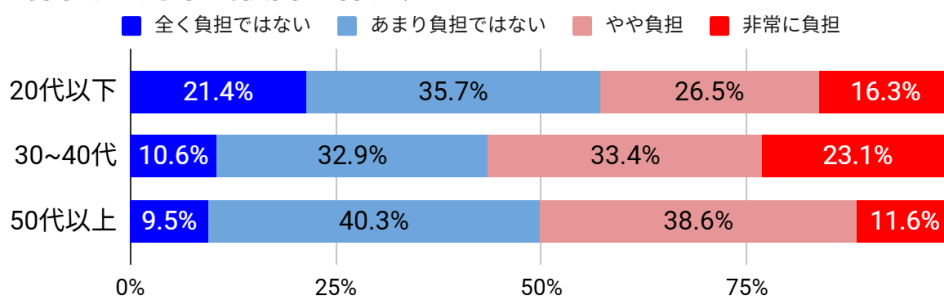


9-6 「時間的な拘束（夜間・休日）」

【回答の特徴】

夜間・休日などの時間的な拘束に対して、53.5%が負担を感じている。本業や家庭との両立と同様に30代・40代の負担感が強く、柔軟な活動が求められている。

時間的な拘束（夜間・休日）

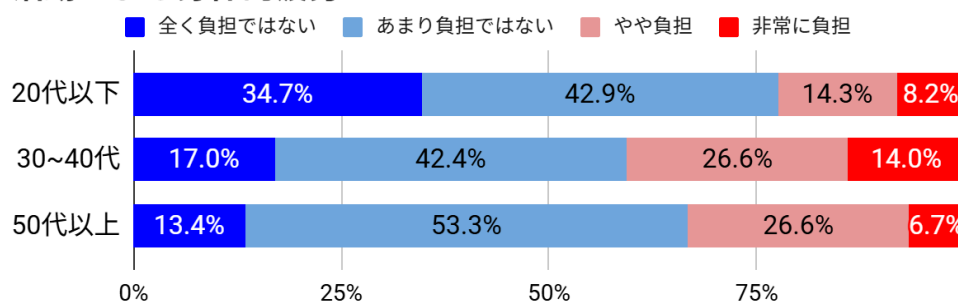


9-7 「活動による身体的疲労」

【回答の特徴】

身体的疲労への負担感は約36%であり、精神面や時間的拘束と比べるとやや低い。ただし、年代別では30代・40代の負担感が他の年代より高く、体力的なしわ寄せがいつている可能性がある。

活動による身体的疲労

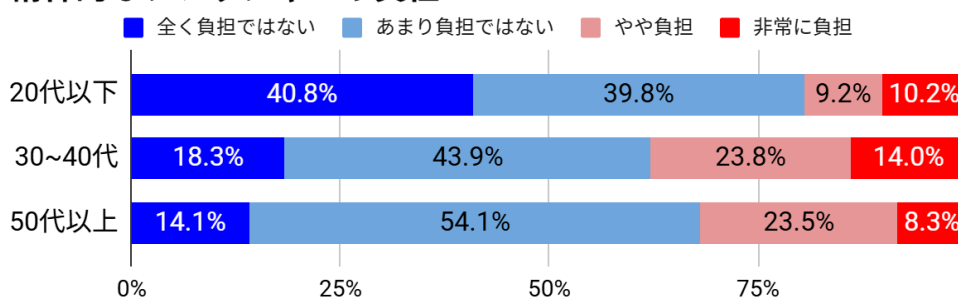


9-8 「精神的なプレッシャーや責任」

【回答の特徴】

精神的負担を感じる割合は約34%である。年代による差は比較的小さいが、重圧や責任を感じながら活動している層が3割強存在し、メンタルケアやサポート体制も重要である。

精神的なプレッシャーや責任

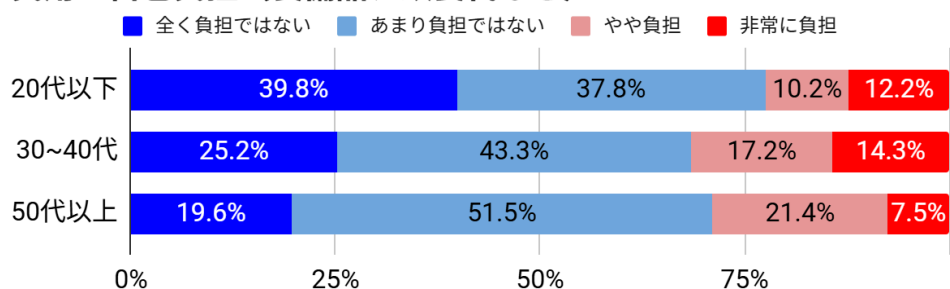


9-9 「費用の自己負担（装備品、飲食代など）」

【回答の特徴】

装備品や飲食代などの自己負担に対し、約3割が負担を感じている。金銭的な持ち出しが発生している現状への不満が一部で見られる。

費用の自己負担（装備品、飲食代など）

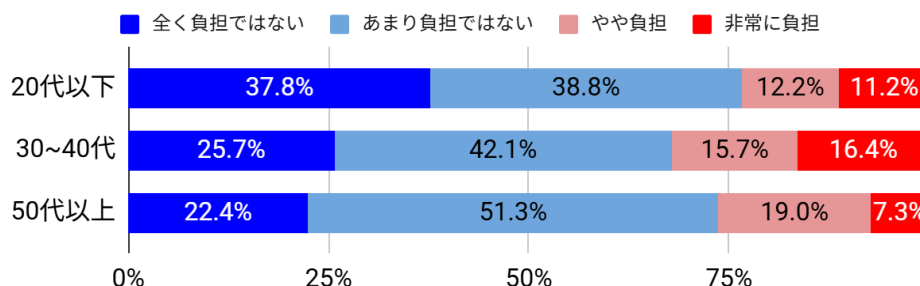


9-10 「飲み会など」

【回答の特徴】

飲み会等に対して約3割が負担を感じている。旧来の「飲みニケーション」を重視する組織風土が、若手・中堅層の意識と乖離しつつあることがうかがえる。

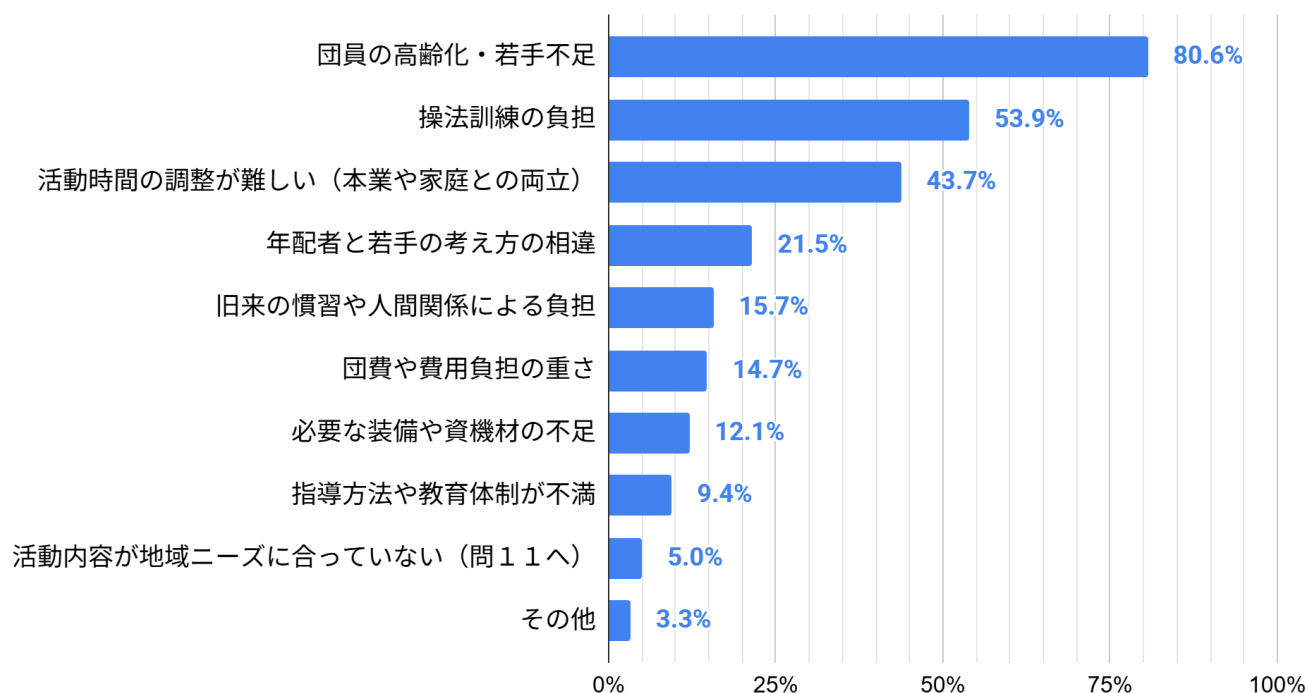
飲み会など



■ 10. 現在所属する分団の課題は何だと思いますか？（複数選択可）

【回答の特徴】

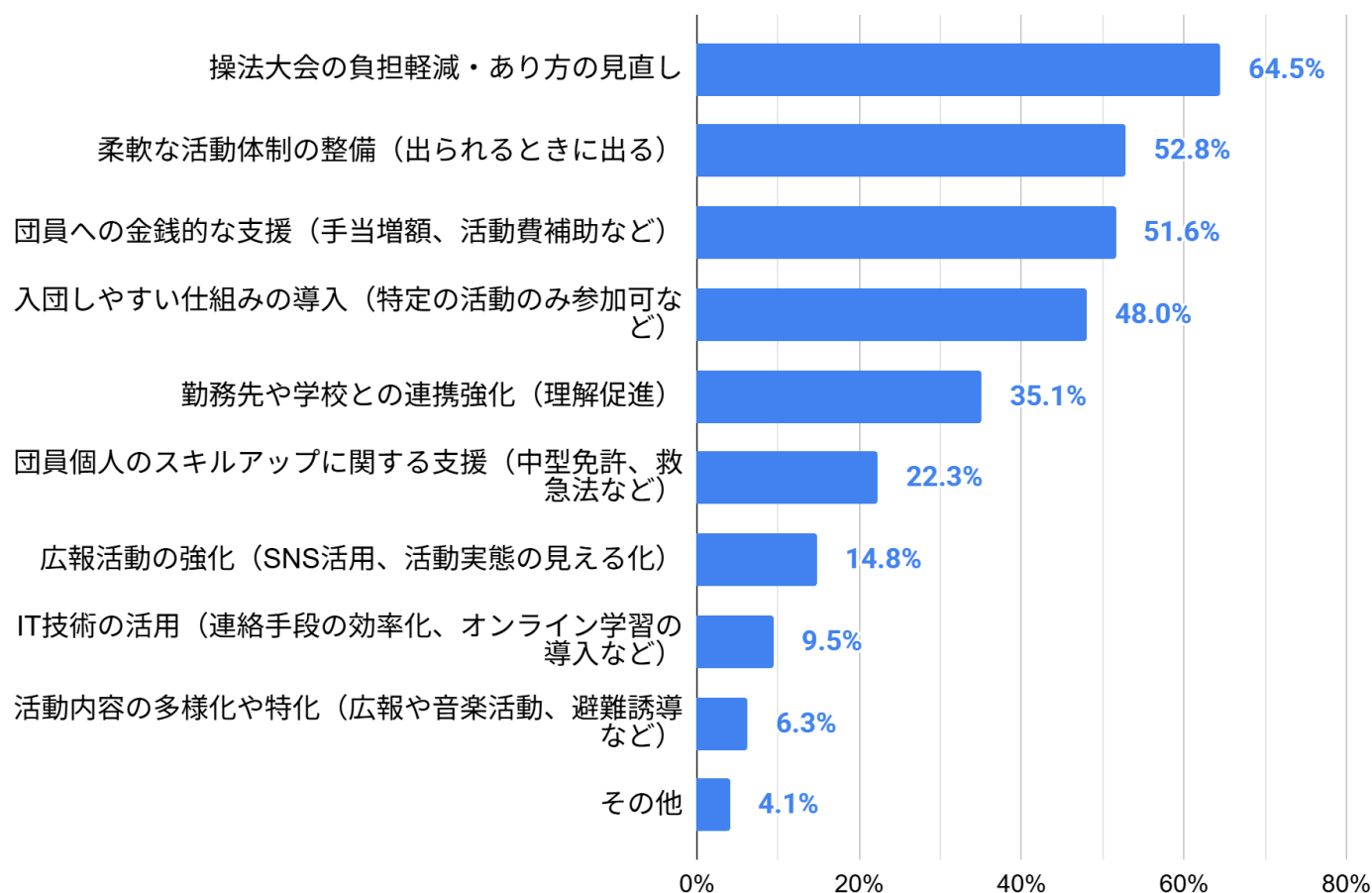
「高齢化・若手不足」が8割超で圧倒的トップ。次いで「操法訓練の負担」「活動時間の調整」が挙げられる。



■ 12. 新たに団員を誘うためには、どのようなことが大事だと思いますか？（複数選択可）

【回答の特徴】

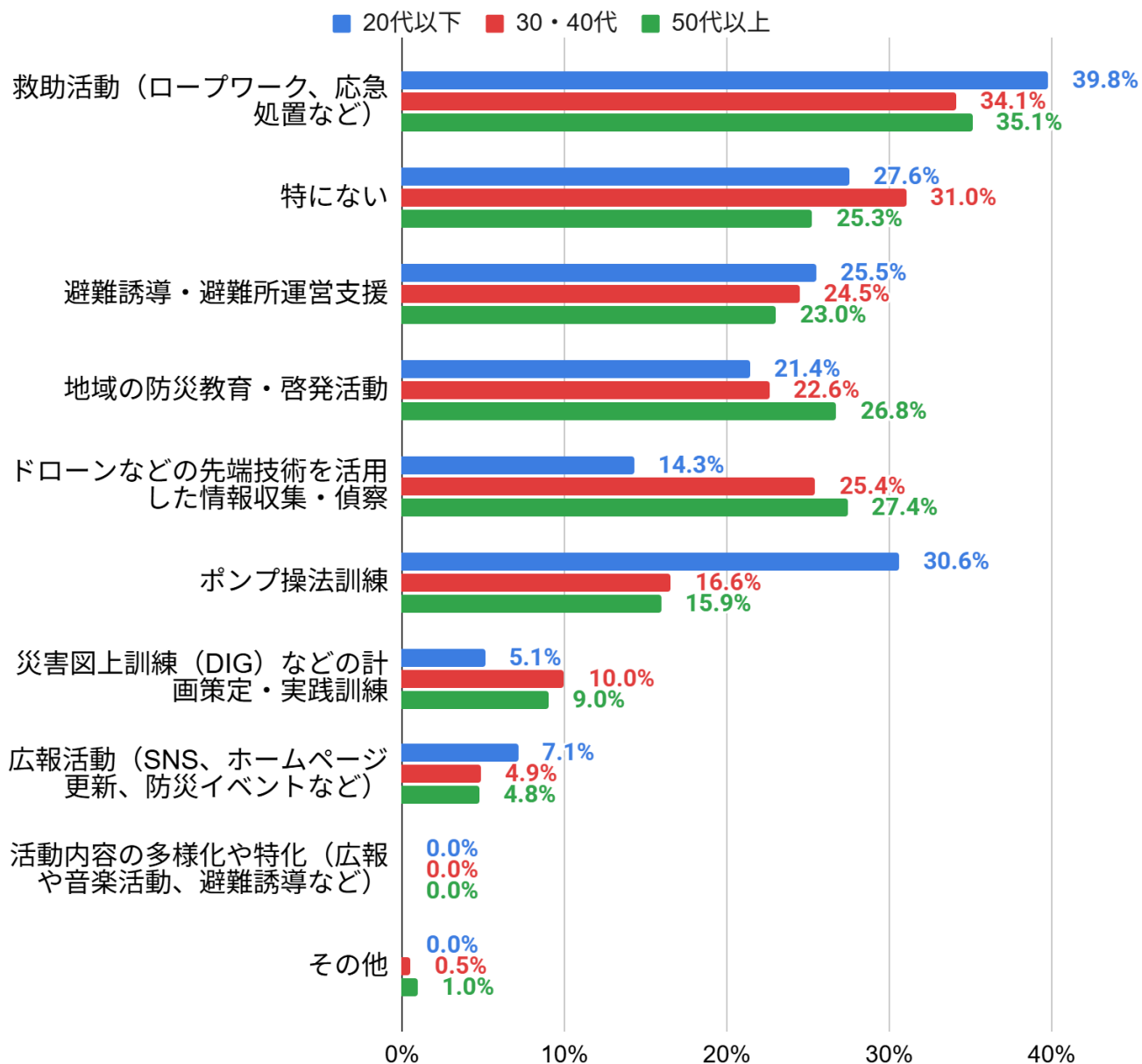
「操法大会の見直し」が約65%で最多。次いで「柔軟な活動体制」「金銭的支援」が続く。若年層ほど「入団しやすい仕組み」を求めており、時代に合わせた制度の近代化と負担軽減が不可欠である。



■ 13. あなたが特に力を入れて取り組みたい活動（または学びたいこと）は何ですか？（複数選択可）

【回答の特徴】

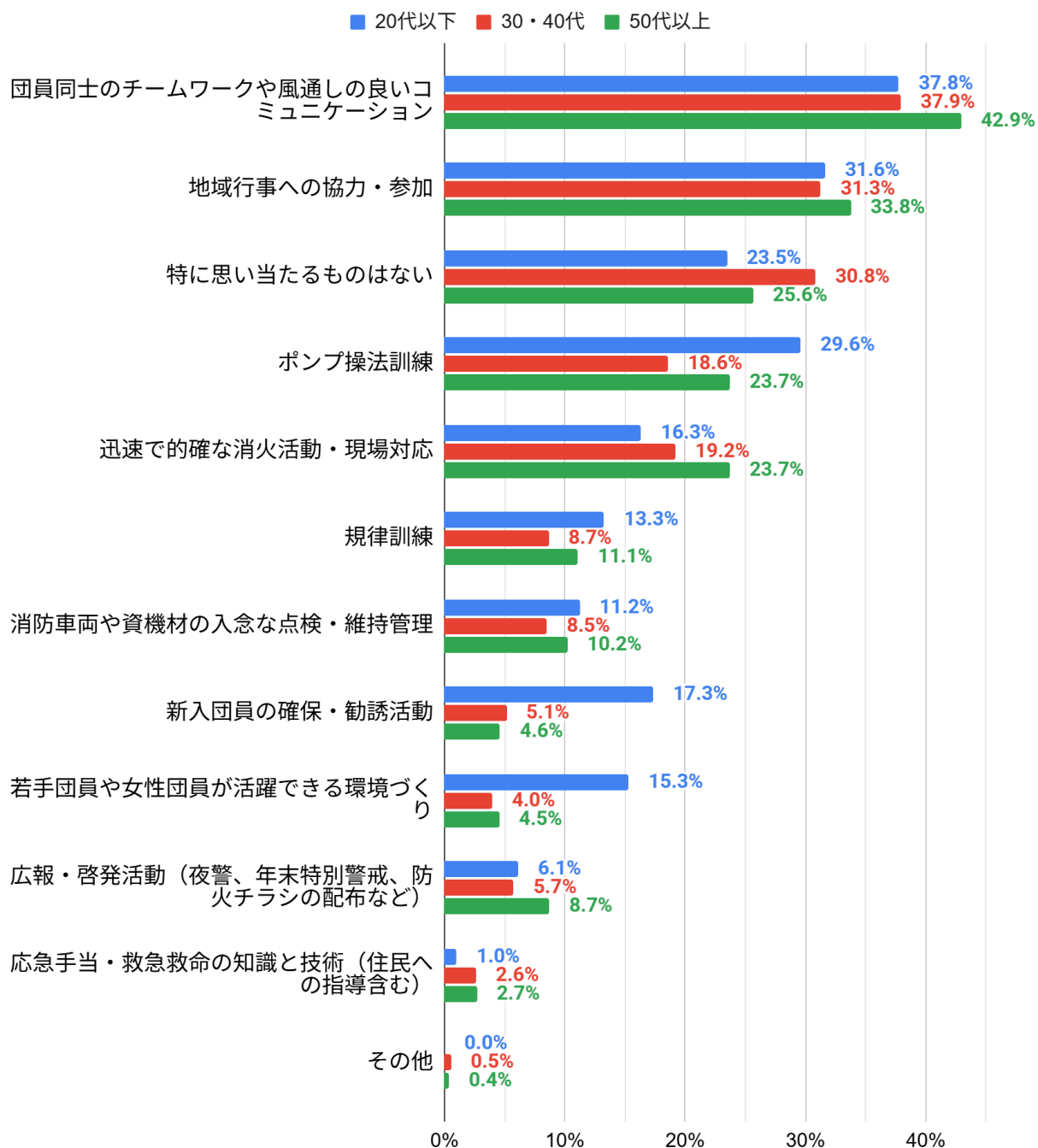
「救助活動」「ドローン等の情報収集」「防災教育」など実践的で直接役立つスキルや、最新技術の習得に対する関心が高いことがわかる。若手では「ポンプ操法訓練」が他の世代より高く、基礎的な技術習得への関心も高い。一方で「特にない」が全体で約3割であり、関心が低い方も見られる。



■ 14. あなたが所属する分団において、「他の分団に比べて優れている」、または「特に力を入れており自信がある」と思う活動・取り組みはどれですか？（複数選択可）

【回答の特徴】

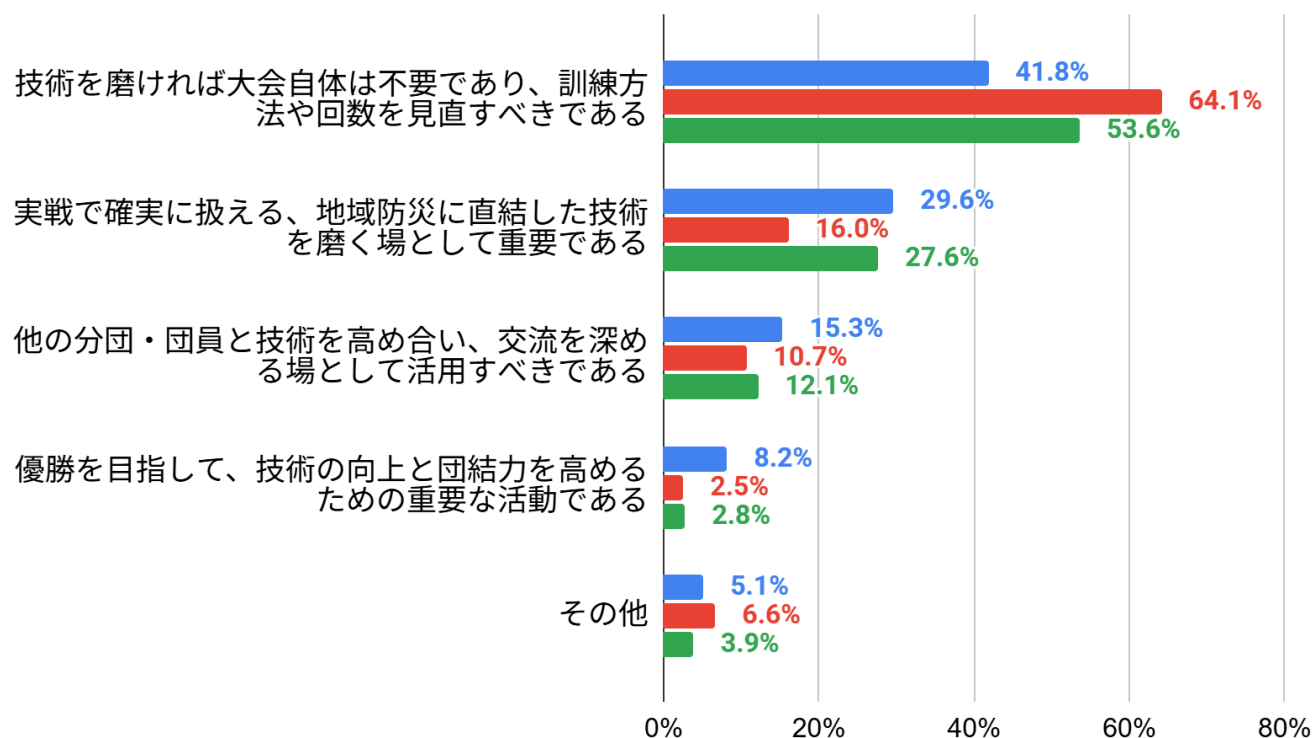
「チームワークや風通しの良さ」「地域行事への協力」が上位。人間関係の良さや地域密着の活動に自信を持つ一方、「特に思い当たるものはない」も28%おり、団員毎の意欲に差が見られる。



■ 15. 操法大会のあり方について、あなたの考えに最も近いものはどれですか？ (一つだけ選択)

【回答の特徴】

「大会自体は不要、訓練を見直すべき」が58.2%で過半数。30代～50代では不要論が圧倒的だが、60代以上では「技術を磨く場として重要」との声が約3割であり、世代間によって意識の差が大きい。



■ 自由記述における主な意見（問11・16から抜粋）

設問11（地域のニーズに合っていない点）および設問16（維持・拡大に関する意見）に寄せられた自由記述を分類し、特徴的な意見を抜粋します。

【総回答数】

問 1 1	163件
問 1 6	678件

【操法大会・訓練に関する意見】（計369件）

＜概要＞操法大会の廃止や実戦に即した訓練への移行を求める声が大多数。大会練習が本業や家庭に悪影響を及ぼし、新規入団を阻害する最大の要因であるとの意見が多い。

一番の負担は操法大会。自分は農家で、忙しい時に夕方から練習、練習から帰って来れば20時過ぎ。本当は仕事しなきゃいけないのに、子育てもしなきゃいけないのに、仕事も家庭も犠牲にして大会の練習。しかも毎年。毎年同じメンバー出て意味ある？火事現場の技術を磨く大会なのであれば、毎年違うメンバーを出すべき。競うための大会であるなら、大会なんか辞めてしまえ。まだ幼い子どももいるのに、家庭を犠牲にして、妻や子どもに頭を下げてまで大会に出なきゃいけないのか？大会の本質、大会の意義って何なのか？

お金欲しい訳じゃないが、練習しても手当出るわけでもない。練習や大会に1度も顔出さない団員がいる中で、手当報酬も同じ。大会の選手に選ばれた者は、あまりにも不公平過ぎないか？本当に心底そう思う。操法大会以外の消防団活動は1ミリも負担だとは思わない。むしろ地域の人と顔合わせられて楽しい。年々、農業という仕事も忙しくなってきた、操法大会どころではない。正直、来年以降も操法大会が続いて、自分が選手に選ばれるような状態ならば、辞めたくないが、消防団を辞めようと心に決めている。それしか僕には選択肢がないです。そう思って、今年も操法大会には出ることにした。操法大会がある限り、仕事、家庭、消防団の両立はハッキリ言って無理。まあでも能代市は全国大会で入賞する分団があるから、操法大会は無くすに無くせないだろうな。昔は大会での勲章がその分団の象徴であったのだろうけど、もはや過去の栄光だし、今の時代にそぐわないと思う。今は令和の時代ですよ？自分も同世代の友人に消防団の勧誘したいけどしてないのは、操法大会あるから。

操法大会に出てもらうために、勧誘されたって思われるのが嫌だし、お互い気の毒だから。

周りも操法大会が負担になることわかってるから、消防団に入りたくないって、実際言ってる人もいます。というわけで、自分の心のうちを書きましたが、操法大会は無くならないと思うので、一個人の意見として見てもらえれば幸いです。

消防団の意義という目線、意味合いで見た場合に、現在の消防大会で競技として勝負する傾向は正直なところ、意義、意味合いからは外れています。消防団は、火事や災害があった時にいち早く駆け付けて消火、救助活動が消防団と役目であると考えます。従って、消防大会を開催し競技として勝負するという今の状況はいかなものかと思えます。消防団は、知識、体感、協力、この3つが全てでないでしょうか。知識 これは文字通り、指揮、一番員、2番員、3番員それぞれの役目はどのようにしているかを知識として各消防団員が知る必要があります。体感 これは知識だけで知っていても、いざとなった時体が動かなければ机上の空論で終わってしまう為、実際に各役目の行動の仕方、判断を持って実際に体験して体でそれを捉える事で、実際の火事現場で対応できるということです。協力 例えば火事の現場へ行った際に、現地の消防団と連絡を取り合い、誰がどの役目を行うか、状況判断も含めて、いち早く初期消火するために現場に居合わせた消防団員が協力しあって対応をするという事です。消防大会は必要ありませんが、知識、体感、協力、これらを得るためには分署にて、毎年春、秋に各分団に対して講習会を開催して、消防団員全員がこれら把握して火事現場、災害現場で役割を果たせるように指導する必要性があります。また、基本動作については、長年消防団員に属している団員が、新人の団員、年数の少ない団員に指導すれば解決しますし、きちんと基本動作を身に着けたいというなら分署で指導するという方法もあります。

現状、消防団員の活動は

①防火週間の啓蒙活動や消火栓・ポンプ車の整備点検など定期的に行う活動

②火災・災害の発生や遭難者の捜索など突発的に行う活動

③操法訓練に関する活動

の3つに大きく分けられると考えてます。このうち①②を行う団員と①②に加え③を行う団員を分けることにより、活動内容の明確化と差別化が現代のニーズとして求められているのではないかと感じております。以下、具体例

①②を行う「通常団員」の活動（年間スケジュールの一例）

春---防火週間（1週間）

夏----講習会（防災技術や規律の向上を目的としたもの）

秋----防火週間（1週間）

冬----消火栓の除雪（必要に応じて0～2日）

*上記に加え災害・火災発生時には出動要請あり

このように明確化&簡素化することで入団の敷居を低くし、時間的拘束や体力的負担の大きい③を切り離すことで年齢を重ねても活動を継続しやすい環境を作る。

操法に関しては通常団員の中から希望者を募り「操法団員（仮）」とし、通常団員の活動①②に加えて大会へ向けての練習③を行い操法技術の向上を目指す。希望制とすることで訓練大会へのモチベーションも維持できる。過疎地域ではすでに操法員の確保が困難な分団もあるので、「操法団員（仮）」の募集とチーム編成は班や部といった単位に拘らず、町単位・市単位といったより広域にまたがった募集である必要が不可欠と感じます。

懸念点としては、「通常団員」の活動から操法を切り離すことにより、防災技術を磨く場所がなくなってしまう恐れがあります。その点は、上記年間スケジュールの夏に講習会（現在の伝達講習会に替わるもの）を行い、大会を目的としたものでない規律訓練やポンプの操作研修などで地域防災に関わる能力の維持を目指します。

現在の消防団員の活動に対する私なりの問題提起と解決案は以上になります。ご検討のほど、よろしく願いいたします。

【報酬・待遇・費用に関する意見】（計105件）

<概要>支給されるべき報酬が分団や班に強制徴収されている会計処理に対する不満や、ボランティア以上の拘束に対する手当の低さが指摘されている。

協力会社的な扱いで入団している企業は使いやすいせいか本業に影響する望ましくない出動要請が多い、会社に強制的に入団させられたり、会社の業務の一端として断りづらい状況での入団となるためそういう人員は士気が皆無である

そもそも自分と何も縁のない地域での活動にそこまで意欲的になる意味がわからない

どうせ入団するのなら自分が今住んでいる所や実家、幼少期に過ごした所など「自分の地域は自分達で守らなければ」と思う所でなければならないと思う

協力会社として企業で入団するものではない

その裏では希望者のみの入団と言っているかもしれないが実際にはそうではない

実際私もこのまま入団するのなら会社を退職する事も視野に入れている

報酬もどうでもいいと思う

そもそも報酬目当てでやるものではない

活動に対しての正当な評価での報酬ならばその限りではないが

消防団の活動資金を調達するための団員募集はよろしくない

どの地域でも金額の差はあれ徴収されている事は分かっていても暗黙の了解として見逃されている
そのうち活動に意欲のない私みたいな人が増えると世間に知れ渡るようになるであろう
今はSNSですぐ拡散してしまいますので
消防団の存在意義は「自分の地域は自分達で守る」という意識だと思います

各地域の実情にあった活動や仕組みを考える必要があると思う。潟上市は、過疎化地域もあれば人口が急増している地域もあります。同一市内でも地域によって考え方が違うと思います。その上で、各地域の消防団の要望や活動方針を行政は把握した上で支援を行ってほしい。

また火災等の現場に出動した際は、管轄する消防本部は消防団にもできる限り指揮を願いたい。消防本部が指揮を取れないのならば、消防団本部分団にしっかりと指揮、指導を行ってほしい。階級や役職事に研修を行い、指揮、指導能力をある程度持たせてほしい。役職自体が名誉職となっている感が否めない。

手当てや退職金をもらっている以上は消防人として、消防団員として胸を張って活動したいと以前から感じている。

タレントなどを使った勧誘ポスターなどで入ろうと考える人がどれだけいるのか？

公には出来ないだろうが、むしろ活動に参加すれば報酬が貰えるなど多少利がある広報をした方がいいのではと思っている。

団員が少ないことが問題だとは思いますが、入ったら抜けられない、抜けるなら代わりに誰かを入れなければならないとか言われているのも忌避される要因だと思う。

簡単に辞める事が出来れば、非常事態に対応出来なくなる可能性はあるが、現在は多くの団員がそれぞれ会社勤めをしており、有事の際に集まれることは少なくなっていると思う。

【活動負担・ワークライフバランスに関する意見】(計40件)

＜概要＞仕事や家庭との両立が極めて困難であり、休日の行事や訓練によるプライベートの犠牲が限界に達しているという切実な声。

私は現在の出初式のあり方について、見直しの余地があると感じています。

かつて商店街が賑わっていた頃は、多くの方に見ていただける機会だったと思います。しかし現在はシャッター店舗も増え、沿道の見物客は少なく、実際には関係者が中心となっているように感じます。

また、一年で最も寒い時期に、纏振りを行う隊員が薄着で演技を行うことについても検討の余地があるのではないのでしょうか。

出初式そのものは文化会館などで簡潔に実施し、纏振りについては、より多くの市民や観光客が集まるイベント（例えばきりたんぽまつり等）で披露する方法もあると思います。

隊員の皆さんは私生活の時間を割き、長期間練習を重ねています。その成果をより多くの方に見ていただける場を設けることが、技術の継承や地域へのPRという面でも有意義ではないのでしょうか。

人員確保のため懇願されて入ったものの仕事や子供の送迎などの影響でほとんど活動に参加できず、それが他の団員に対して後ろめたい気持ちがあるうえ、人員不足もあり抜けるに抜けられない

状況は他の人でも同じ境遇はあると思います。

そんな思いをする事がないよう、雇用契約を交わして条件が合わない場合は更新しないルールがあっても良いと思います。1回入ったら辞めにくい状況は改善したほうが良いと思いますし、逆に拡大を目指すのであれば入ったら得する仕組みを構築しないと正義感だけでは成り立たない気がします。みんな忙しいなか貴重な休みを消費して参加しているので好きでないと続かないと思います。福利厚生で参加型スポーツ活動やイベントなども敷居が下がるのではないのでしょうか？

出初式の纏振りは団員の士気を高めるためという名目もあるようですが、現状は逆に仕事やプライベートを大きく削っての練習参加負担や人員不足のため、団員離れや新規団員加入の妨げになっています。纏振りは消化活動・現場対応には全く結びつかないため、出初式での纏振り中止、纏振りに参加したい分団のみの参加では良いのではと思います。

【人員不足・高齢化に関する意見】（計21件）

＜概要＞少子高齢化によって現在の分団数や班体制を維持することは不可能であり、組織の統廃合や広域化を急ぐべきだという意見。

少子化が進む世の中で消防団員を今後増やすのは、一時的にはできても恒久的にはとても難しいと考えています。勧誘に関しても、隣の部落だから勧誘しても自分達の班には入らないので勧誘しない。等の話しも聞こえます。なので一つの班の人数を増やす為、合併は必要だと思いますが2班を1班に。ではなく、3班を1班にする。ぐらいの改革が必要だと思います。勧誘できる範囲も増えますし。

地域のニーズというよりも、自分の地区の各分団の団員の年齢構成を考えても、数年後には活動は出来ない人数になると思うが、合併の話なども動きがなく、地域のニーズに合わせた活動以前に、活動がままならなくなるといった現状を、消防署や県や市の防災関係の方が、かなりの危機感を持っているとは思えない。

人口減少が進む秋田県（地域）に求められる消防団の在り方を最近よく考えます。
団員確保の難しさや地区によって団員減少の為に活動が出来ていない小隊があったりと。
災害発生時、地域住民も個々に対応できるような環境ができないかと思います。
（高齢者の割合が多いので難しいとは思いますが。）

【古い体質・人間関係に関する意見】（計20件）

＜概要＞年配者との意識のズレ、強制的な飲み会、旧来の慣習や上意下達の風土が若手の意欲を削ぎ、時代錯誤であるとの声。

仕事がバラバラなのに、同じ時間で活動する事がおかしい。また、人口減少しているのに、団員を削減が地域で認められておらず、退団したくても出来ない。現役団員では、廃止を望む人が大多数なのに、強制活動が時代に合っていない。地域に強制されない、自己申告制にしたらいいと考えます。恐らく暗黙の強制が無ければ、参加者はいないに等しい結果になると思います。

土日休みでは無い人が多い中、田舎は新しい人も入らず行事に参加しなきゃいけない。地域ニーズでは無く時代に合って無いと思う。災害などで活動するのは何とも思わないがとにかく体制や考えが古すぎます。年配の団員や偉い方は消防団命の考えの方が居ますが全く理解出来ません。

年配の人の考えを変えないと今後の為にならない。昔はこうだった。伝統だから。とゆう考えだと若い人には伝わらないし、誘っても今の若い子には消防団と消防士の区別が付いていない。消防士の募集はSNS上ではしているが消防団の募集を提案したが意見が通らなかった。

【その他の意見】(計285件)

一番の問題は装備の不足、老朽化。予算がないのはわかるが、支給されるホースは使用期限ギリギリのもの。防火服、防火ヘルメットなども何十年物かわからない銀色のウルトラマン。冬季の防寒装備も支給されず各自で用意しなければならない。これでは活動はおろか、新人さんなんて入るわけがない。装備の更新、現場の声ニーズを議員のみささんにもっと聞いていただきたいものです。出初め式でお偉いさんのあいさつに必ずでてくるワードが「装備の充実」実行してください。

農家、自営業などの自宅と職場が同一となっている世帯がほぼ無い現在において、旧態然とした活動は不可能となって来ている。また、コンプライアンスと言う言葉の下に、活動予算の削減、団員同士の交流、地域住民との交流も何かと制限も課される昨今において、団員の維持、拡大よりも、団の存続自体が課題として大きいと認識し、各市町村がその土地に合った消防団の在り方を根本から見直す必要性を強く感じます。

そもそも消防団の数は人口減少と共に減るのは明白なので、維持拡大は今の所不可能であるのに、その問いをしている段階で本当にどうにかしたいと思っていないのではないかと感じる。世難は生産性向上に対して必死に動いているのに、マンパワーに頼るのは甚だおかしい。移民政策でもしない限りその問いに対する答えはないように思う。

V 統計

■ 1. あなたの年代を教えてください。

回答項目	回答数	割合
20代以下	98人	3.5%
30代	391人	14.0%
40代	949人	34.0%
50代	875人	31.4%
60代以上	467人	16.7%
未回答	11人	0.4%
合計	2,791人	100.0%

■ 2. あなたの性別を教えてください。

回答項目	回答数	割合
男性	2707人	97.0%
女性	75人	2.7%
未回答	9人	0.3%
合計	2,791人	100.0%

■ 3. 消防団員としての経験年数を教えてください。

回答項目	回答数	割合
5年以内	328人	11.8%
6～10年	486人	17.4%
11～20年	881人	31.6%
21～30年	697人	25.0%
30年以上	399人	14.3%
合計	2,591人	100.1%

■ 4. あなたの所属する市町村名をご記入ください。

回答項目	全回答	20代以下	30代	40代	50代	60代以上
秋田市	334人	14人	39人	79人	131人	68人
能代市	101人	0人	8人	33人	39人	21人
横手市	503人	5人	51人	190人	169人	88人
大館市	123人	8人	13人	45人	38人	19人
男鹿市	68人	5人	10人	17人	22人	14人
湯沢市	268人	6人	24人	79人	88人	71人
鹿角市	195人	77人	39人	85人	49人	15人
由利本荘市	231人	10人	53人	103人	45人	18人
潟上市	78人	3人	6人	23人	34人	10人
大仙市	243人	4人	33人	73人	74人	59人
北秋田市	72人	3人	9人	17人	31人	12人
にかほ市	94人	10人	30人	44人	7人	1人
仙北市	114人	6人	19人	40人	27人	21人
小坂町	20人	2人	5人	5人	4人	4人
上小阿仁村	8人	0人	2人	0人	1人	5人
藤里町	18人	0人	1人	8人	7人	2人
三種町	5人	1人	1人	0人	2人	1人
八峰町	20人	2人	1人	10人	7人	0人
五城目町	28人	0人	0人	6人	19人	3人
八郎潟町	26人	1人	8人	6人	4人	7人
井川町	39人	5人	22人	13人	12人	7人
大潟村	1人	0人	0人	0人	0人	1人
美郷町	26人	0人	5人	7人	7人	7人
羽後町	142人	3人	24人	52人	51人	11人
東成瀬村	34人	3人	8人	14人	7人	2人
合計	2,770人	98人	391人	949人	875人	467人

■ 5. あなたが所属している団員の種別をお選びください

回答項目	回答数	割合
通常団員	2,654人	95.1%
機能別団員（特定の役割に特化）	107人	3.8%
その他（自由記述等）	30人	1.1%
合計	2,791人	100.0%

■ 6. 消防団に入団したきっかけは何ですか？（複数選択可）

回答項目	全回答	全回答 (割合)	20代以下	30代	40代	50代	60代以上
友人・知人からの誘いがあった (同僚・先輩など含む)	1,927人	69.0%	52人 (53.1%)	239人 (61.1%)	662人 (69.8%)	628人 (71.8%)	338人 (72.4%)
地域社会へ貢献したかった	714人	25.6%	33人 (33.7%)	95人 (24.3%)	189人 (19.9%)	246人 (28.1%)	149人 (31.9%)
家族や親戚からの誘いがあった	470人	16.8%	27人 (27.6%)	81人 (20.7%)	158人 (16.6%)	121人 (13.8%)	82人 (17.6%)
勤務先や地域からの期待・慣習	229人	8.2%	12人 (12.2%)	54人 (13.8%)	89人 (9.4%)	53人 (6.1%)	20人 (4.3%)
防災対応の知識やスキルを身につけたかった	115人	4.1%	6人 (6.1%)	18人 (4.6%)	37人 (3.9%)	32人 (3.7%)	22人 (4.7%)
運動・体力維持のため	25人	0.9%	4人 (4.1%)	2人 (0.5%)	12人 (1.3%)	5人 (0.6%)	2人 (0.4%)
入団を促す広報 (ポスター、SNSなど)を見たから	8人	0.3%	2人 (2.0%)	1人 (0.3%)	2人 (0.2%)	2人 (0.2%)	1人 (0.2%)
防災イベント等での勧誘	8人	0.3%	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	4人 (0.4%)	1人 (0.1%)	3人 (0.6%)
その他(自由記述等)	143人	5.1%	4人 (4.1%)	32人 (8.2%)	56人 (5.9%)	36人 (4.1%)	13人 (2.8%)
合計	3,639人	-	140人	522人	1,161人	1,074人	630人

■ 7. 現在の消防団活動全体に対して、どの程度満足していますか？

回答項目	全回答	全回答 (割合)	20代以下	30代	40代	50代	60代以上
5(満足)	204人	7.3%	18人 (18.4%)	27人 (6.9%)	50人 (5.3%)	58人 (6.6%)	49人 (10.5%)
4(やや満足)	415人	14.9%	22人 (22.4%)	51人 (13.0%)	103人 (10.9%)	129人 (14.7%)	109人 (23.3%)
3(普通)	1292人	46.3%	33人 (33.7%)	162人 (41.4%)	441人 (46.5%)	427人 (48.8%)	226人 (48.4%)
2(やや不満)	508人	18.2%	16人 (16.3%)	73人 (18.7%)	188人 (19.8%)	166人 (19.0%)	61人 (13.1%)
1(不満)	372人	13.3%	9人 (9.2%)	78人 (19.9%)	167人 (17.6%)	95人 (10.9%)	22人 (4.7%)
合計	2,791人	-	98人	391人	949人	875人	467人

■ 8. 消防団活動を通じて「やりがい」や「特に良い」と感じることは何ですか？
(複数選択可)

回答項目	全回答	全回答 (割合)	20代以下	30代	40代	50代	60代以上
様々な年代 や職業の団 員との交流 (人脈の広 がり)	1,447人	51.8%	43人 (43.9%)	183人 (46.8%)	445人 (46.9%)	485人 (55.4%)	285人 (61.0%)
地域住民か らの感謝や 信頼	890人	31.9%	31人 (31.6%)	90人 (23.0%)	249人 (26.2%)	300人 (34.3%)	215人 (46.0%)
災害対応や 救急救命な どの知識・ スキル向上	804人	28.8%	29人 (29.6%)	99人 (25.3%)	241人 (25.4%)	254人 (29.0%)	178人 (38.1%)
自分の役割 が地域防災 に直結して いる実感	601人	21.5%	18人 (18.4%)	58人 (14.8%)	173人 (18.2%)	196人 (22.4%)	153人 (32.8%)
特にない	564人	20.2%	20人 (20.4%)	103人 (26.3%)	239人 (25.2%)	160人 (18.3%)	40人 (8.6%)
社会経験に よる人間性 の向上(対 人力、実務 能力等)	492人	17.6%	23人 (23.5%)	67人 (17.1%)	156人 (16.4%)	136人 (15.5%)	108人 (23.1%)
消防団活動 に伴う手 当・報酬	410人	14.7%	26人 (26.5%)	66人 (16.9%)	153人 (16.1%)	111人 (12.7%)	53人 (11.3%)
体力維持・ 健康増進	92人	3.3%	12人 (12.2%)	16人 (4.1%)	35人 (3.7%)	19人 (2.2%)	10人 (2.1%)
その他(自 由記述等)	24人	0.9%	0人 (0.0%)	6人 (1.5%)	8人 (0.8%)	7人 (0.8%)	3人 (0.6%)
合計	5,324人	-	202人	756人	1,879人	1,864人	1,045人

■ 9. あなたが消防団活動で「負担に思うこと」とその負担感はどの程度ですか？

【訓練（ポンプ操法、初期消火など）】

回答項目	全回答	全回答 (割合)	20代以下	30代	40代	50代	60代以上
非常に負担	944人	33.8%	25人 (25.5%)	167人 (42.7%)	400人 (42.1%)	278人 (31.8%)	71人 (15.2%)
やや負担	953人	34.1%	21人 (21.4%)	113人 (28.9%)	299人 (31.5%)	318人 (36.3%)	199人 (42.6%)
あまり負担ではない	670人	24.0%	34人 (34.7%)	85人 (21.7%)	183人 (19.3%)	220人 (25.1%)	147人 (31.5%)
全く負担ではない	224人	8.0%	18人 (18.4%)	26人 (6.6%)	67人 (7.1%)	59人 (6.7%)	50人 (10.7%)
合計	2,791人	-	2,791人	391人	949人	875人	467人

【災害時の出動、警戒活動】

回答項目	全回答	全回答 (割合)	20代以下	30代	40代	50代	60代以上
非常に負担	211人	7.6%	4人 (4.1%)	47人 (12.0%)	81人 (8.5%)	64人 (7.3%)	15人 (3.2%)
やや負担	778人	27.9%	20人 (20.4%)	112人 (28.6%)	256人 (27.0%)	273人 (31.2%)	115人 (24.6%)
あまり負担ではない	1,270人	45.5%	43人 (43.9%)	165人 (42.2%)	413人 (43.5%)	407人 (46.5%)	238人 (51.0%)
全く負担ではない	532人	19.1%	31人 (31.6%)	67人 (17.1%)	199人 (21.0%)	131人 (15.0%)	99人 (21.2%)
合計	2,791人	-	98人	391人	949人	875人	467人

【定例の会議・打合せ】

回答項目	全回答	全回答 (割合)	20代以下	30代	40代	50代	60代以上
非常に負担	391人	14.0%	9人 (9.2%)	75人 (19.2%)	168人 (17.7%)	116人 (13.3%)	22人 (4.7%)
やや負担	917人	32.9%	26人 (26.5%)	119人 (30.4%)	320人 (33.7%)	308人 (35.2%)	141人 (30.2%)
あまり負担ではない	1,125人	40.3%	36人 (36.7%)	145人 (37.1%)	341人 (35.9%)	374人 (42.7%)	227人 (48.6%)
全く負担ではない	358人	12.8%	27人 (27.6%)	52人 (13.3%)	120人 (12.6%)	77人 (8.8%)	77人 (16.5%)
合計	2,791人	-	98人	391人	949人	875人	467人

【地域行事への協力】

回答項目	全回答	全回答 (割合)	20代以下	30代	40代	50代	60代以上
非常に負担	216人	7.7%	6人 (6.1%)	42人 (10.7%)	95人 (10.0%)	61人 (7.0%)	10人 (2.1%)
やや負担	644人	23.1%	15人 (15.3%)	91人 (23.3%)	199人 (21.0%)	235人 (26.9%)	103人 (22.1%)
あまり負担ではない	1,406人	50.4%	47人 (48.0%)	181人 (46.3%)	479人 (50.5%)	443人 (50.6%)	254人 (54.4%)
全く負担ではない	525人	18.8%	30人 (30.6%)	77人 (19.7%)	176人 (18.5%)	136人 (15.5%)	100人 (21.4%)
合計	2,791人	-	98人	391人	949人	875人	467人

【本業や家庭との両立】

回答項目	全回答	全回答 (割合)	20代以下	30代	40代	50代	60代以上
------	-----	-------------	-------	-----	-----	-----	-------

非常に負担	587人	21.0%	17人 (17.3%)	130人 (33.2%)	239人 (25.2%)	167人 (19.1%)	31人 (6.6%)
やや負担	981人	35.1%	25人 (25.5%)	110人 (28.1%)	320人 (33.7%)	338人 (38.6%)	186人 (39.8%)
あまり負担ではない	952人	34.1%	29人 (29.6%)	115人 (29.4%)	298人 (31.4%)	306人 (35.0%)	202人 (43.3%)
全く負担ではない	271人	9.7%	27人 (27.6%)	36人 (9.2%)	92人 (9.7%)	64人 (7.3%)	48人 (10.3%)
合計	2,791人	-	98人	391人	949人	875人	467人

【時間的な拘束（夜間・休日）】

回答項目	全回答	全回答 (割合)	20代以下	30代	40代	50代	60代以上
非常に負担	493人	17.7%	16人 (16.3%)	97人 (24.8%)	203人 (21.4%)	140人 (16.0%)	34人 (7.3%)
やや負担	1,000人	35.8%	26人 (26.5%)	129人 (33.0%)	321人 (33.8%)	347人 (39.7%)	175人 (37.5%)
あまり負担ではない	1,009人	36.2%	35人 (35.7%)	124人 (31.7%)	324人 (34.1%)	317人 (36.2%)	207人 (44.3%)
全く負担ではない	289人	10.4%	21人 (21.4%)	41人 (10.5%)	101人 (10.6%)	71人 (8.1%)	51人 (10.9%)
合計	2,791人	-	98人	391人	949人	875人	467人

【活動による身体的疲労】

回答項目	全回答	全回答 (割合)	20代以下	30代	40代	50代	60代以上
非常に負担	294人	10.5%	8人 (8.2%)	59人 (15.1%)	123人 (13.0%)	84人 (9.6%)	18人 (3.9%)
やや負担	725人	26.0%	14人 (14.3%)	108人 (27.6%)	243人 (25.6%)	238人 (27.2%)	121人 (25.9%)
あまり負担ではない	1324人	47.4%	42人 (42.9%)	159人 (40.7%)	419人 (44.2%)	435人 (49.7%)	266人 (57.0%)
全く負担ではない	448人	16.1%	34人 (34.7%)	65人 (16.6%)	164人 (17.3%)	118人 (13.5%)	62人 (13.3%)
合計	2,791人	-	98人	391人	949人	875人	467人

【精神的なプレッシャーや責任】

回答項目	全回答	全回答 (割合)	20代以下	30代	40代	50代	60代以上
非常に負担	314人	11.3%	10人 (10.2%)	59人 (15.1%)	122人 (12.9%)	95人 (10.9%)	27人 (5.8%)
やや負担	648人	23.2%	9人 (9.2%)	92人 (23.5%)	229人 (24.1%)	206人 (23.5%)	110人 (23.6%)
あまり負担ではない	1,337人	47.9%	39人 (39.8%)	175人 (44.8%)	408人 (43.0%)	444人 (50.7%)	268人 (57.4%)
全く負担ではない	492人	17.6%	40人 (40.8%)	65人 (16.6%)	190人 (20.0%)	130人 (14.9%)	62人 (13.3%)
合計	2,791人	-	98人	391人	949人	875人	467人

【費用の自己負担（装備品、飲食代など）】

回答項目	全回答	全回答 (割合)	20代以下	30代	40代	50代	60代以上
非常に負担	322人	11.5%	12人 (12.2%)	54人 (13.8%)	140人 (14.8%)	96人 (11.0%)	19人 (4.1%)
やや負担	527人	18.9%	10人 (10.2%)	66人 (16.9%)	167人 (17.6%)	174人 (19.9%)	107人 (22.9%)
あまり負担ではない	1,291人	46.3%	37人 (37.8%)	174人 (44.5%)	399人 (42.0%)	423人 (48.3%)	255人 (54.6%)
全く負担ではない	651人	23.3%	39人 (39.8%)	97人 (24.8%)	243人 (25.6%)	182人 (20.8%)	86人 (18.4%)
合計	2,791人	-	98人	391人	949人	875人	467人

【飲み会など】

回答項目	全回答	全回答 (割合)	20代以下	30代	40代	50代	60代以上
非常に負担	342人	12.3%	11人 (11.2%)	67人 (17.1%)	149人 (15.7%)	93人 (10.6%)	19人 (4.1%)
やや負担	478人	17.1%	12人 (12.2%)	60人 (15.3%)	153人 (16.1%)	163人 (18.6%)	90人 (19.3%)

あまり負担ではない	1,275人	45.7%	38人 (38.8%)	168人 (43.0%)	392人 (41.3%)	420人 (48.0%)	255人 (54.6%)
全く負担ではない	696人	24.9%	37人 (37.8%)	96人 (24.6%)	255人 (26.9%)	199人 (22.7%)	103人 (22.1%)
合計	2,791人	-	98人	391人	949人	875人	467人

■ 10. 現在所属する分団の課題は何だと思いますか？（複数選択可）

回答項目	全回答	全回答 (割合)	20代以下	30代	40代	50代	60代以上
団員の高齢化・若手不足	2,253人	80.7%	63人 (64.3%)	281人 (71.9%)	735人 (77.4%)	737人 (84.2%)	430人 (92.1%)
操法訓練の負担	1,503人	53.9%	32人 (32.7%)	203人 (51.9%)	551人 (58.1%)	485人 (55.4%)	225人 (48.2%)
活動時間の調整が難しい (本業や家庭との両立)	1,221人	43.7%	32人 (32.7%)	186人 (47.6%)	430人 (45.3%)	371人 (42.4%)	198人 (42.4%)
年配者と若手の考え方の相違	598人	21.4%	14人 (14.3%)	109人 (27.9%)	209人 (22.0%)	156人 (17.8%)	108人 (23.1%)
旧来の慣習や人間関係による負担	436人	15.6%	9人 (9.2%)	91人 (23.3%)	176人 (18.5%)	117人 (13.4%)	41人 (8.8%)
団費や費用負担の重さ	409人	14.7%	7人 (7.1%)	63人 (16.1%)	155人 (16.3%)	126人 (14.4%)	56人 (12.0%)
必要な装備や資機材の不足	335人	12.0%	15人 (15.3%)	42人 (10.7%)	119人 (12.5%)	106人 (12.1%)	53人 (11.3%)
指導方法や教育体制が不満	262人	9.4%	8人 (8.2%)	53人 (13.6%)	100人 (10.5%)	66人 (7.5%)	34人 (7.3%)
活動内容が地域ニーズに合っていない（問11へ）	139人	5.0%	1人 (1.0%)	23人 (5.9%)	60人 (6.3%)	45人 (5.1%)	9人 (1.9%)

その他 (自由記 述等)	91人	3.3%	1人 (1.0%)	16人 (4.1%)	36人 (3.8%)	29人 (3.3%)	8人 (1.7%)
合計	7,250人	-	182人	1,067人	2,572人	2,238人	1,162人

■ 12. 新たに団員を誘うためには、どのようなことが大事だと思いますか？（複数選択可）

回答項目	全回答	全回答 (割合)	20代以下	30代	40代	50代	60代以上
操法大会 の負担軽減・あり 方の見直し	1,807人	64.7%	50人 (51.0%)	259人 (66.2%)	652人 (68.7%)	563人 (64.3%)	276人 (59.1%)
柔軟な活 動体制の 整備（出 られると きに出 る）	1,481人	53.1%	29人 (29.6%)	203人 (51.9%)	498人 (52.5%)	500人 (57.1%)	245人 (52.5%)
団員への 金銭的な 支援（手 当増額、 活動費補 助など）	1,443人	51.7%	48人 (49.0%)	211人 (54.0%)	509人 (53.6%)	443人 (50.6%)	228人 (48.8%)
入団しや すい仕組 みの導入 （特定の 活動のみ 参加可な ど）	1,347人	48.3%	60人 (61.2%)	210人 (53.7%)	464人 (48.9%)	399人 (45.6%)	208人 (44.5%)
勤務先や 学校との 連携強化 （理解促 進）	986人	35.3%	31人 (31.6%)	137人 (35.0%)	304人 (32.0%)	324人 (37.0%)	184人 (39.4%)

団員個人のスキルアップに関する支援（中型免許、救急法など）	627人	22.5%	26人 (26.5%)	106人 (27.1%)	204人 (21.5%)	177人 (20.2%)	110人 (23.6%)
広報活動の強化（SNS活用、活動実態の見える化）	416人	14.9%	23人 (23.5%)	64人 (16.4%)	139人 (14.6%)	114人 (13.0%)	73人 (15.6%)
IT技術の活用（連絡手段の効率化、オンライン学習の導入など）	264人	9.5%	7人 (7.1%)	49人 (12.5%)	90人 (9.5%)	83人 (9.5%)	35人 (7.5%)
活動内容の多様化や特化（広報や音楽活動、避難誘導など）	178人	6.4%	11人 (11.2%)	27人 (6.9%)	67人 (7.1%)	40人 (4.6%)	30人 (6.4%)
その他（自由記述等）	104人	3.7%	3人 (3.1%)	16人 (4.1%)	37人 (3.9%)	34人 (3.9%)	13人 (2.8%)
合計	8,653人	-	294人	1,282人	3,404人	2,631人	1,402人

■ 13. あなたが特に力を入れて取り組みたい活動（または学びたいこと）は何ですか？（複数選択可）

回答項目	全回答	全回答 (割合)	20代以下	30代	40代	50代	60代以上
救助活動（ロープワーク、応急処置など）	972人	34.8%	39人 (39.8%)	133人 (34.0%)	324人 (34.1%)	306人 (35.0%)	165人 (35.3%)

特にない	785人	28.1%	27人 (27.6%)	122人 (31.2%)	294人 (31.0%)	242人 (27.7%)	97人 (20.8%)
ドローンなどの先端技術を活用した情報収集・偵察	726人	26.0%	14人 (14.3%)	91人 (23.3%)	250人 (26.3%)	227人 (25.9%)	141人 (30.2%)
地域の防災教育・啓発活動	685人	24.5%	21人 (21.4%)	89人 (22.8%)	214人 (22.6%)	202人 (23.1%)	157人 (33.6%)
避難誘導・避難所運営支援	664人	23.8%	25人 (25.5%)	89人 (22.8%)	239人 (25.2%)	180人 (20.6%)	129人 (27.6%)
ポンプ操法訓練	467人	16.7%	30人 (30.6%)	77人 (19.7%)	145人 (15.3%)	145人 (16.6%)	69人 (14.8%)
災害図上訓練（DIG）などの計画策定・実践訓練	260人	9.3%	5人 (5.1%)	39人 (10.0%)	95人 (10.0%)	65人 (7.4%)	56人 (12.0%)
広報活動（SNS、ホームページ更新、防災イベントなど）	138人	4.9%	7人 (7.1%)	27人 (6.9%)	38人 (4.0%)	41人 (4.7%)	23人 (4.9%)
その他（自由記述等）	47人	1.7%	0人 (0.0%)	7人 (1.8%)	15人 (1.6%)	18人 (2.1%)	7人 (1.5%)
合計	4,744人	-	168人	676人	1,658人	1,426人	844人

■ 14. あなたが所属する分団において、「他の分団に比べて優れている」、または「特に力を入れており自信がある」と思う活動・取り組みはどれですか？（複数選択可）

回答項目	全回答	全回答 (割合)	20代以下	30代	40代	50代	60代以上
------	-----	-------------	-------	-----	-----	-----	-------

団員同士のチームワークや風通しの良いコミュニケーション	1,127人	40.4%	37人 (37.8%)	154人 (39.4%)	354人 (37.3%)	363人 (41.5%)	213人 (45.6%)
地域行事への協力・参加	904人	32.4%	31人 (31.6%)	115人 (29.4%)	304人 (32.0%)	289人 (33.0%)	164人 (35.1%)
特に思い当たるものはない	781人	28.0%	23人 (23.5%)	127人 (32.5%)	285人 (30.0%)	237人 (27.1%)	107人 (22.9%)
ポンプ操法訓練	601人	21.5%	29人 (29.6%)	78人 (19.9%)	171人 (18.0%)	217人 (24.8%)	101人 (21.6%)
迅速で的確な消火活動・現場対応	593人	21.2%	16人 (16.3%)	70人 (17.9%)	187人 (19.7%)	198人 (22.6%)	120人 (25.7%)
規律訓練	280人	10.0%	13人 (13.3%)	33人 (8.4%)	83人 (8.7%)	98人 (11.2%)	51人 (10.9%)
消防車両や資機材の入念な点検・維持管理	264人	9.5%	11人 (11.2%)	35人 (9.0%)	79人 (8.3%)	81人 (9.3%)	56人 (12.0%)
広報・啓発活動 (夜警、年末特別警戒、防火チラシの配布など)	201人	7.2%	6人 (6.1%)	25人 (6.4%)	52人 (5.5%)	71人 (8.1%)	46人 (9.9%)
新入団員の確保・勧誘活動	149人	5.3%	17人 (17.3%)	31人 (7.9%)	38人 (4.0%)	29人 (3.3%)	33人 (7.1%)
若手団員や女性団員が活躍できる環境づくり	130人	4.7%	15人 (15.3%)	22人 (5.6%)	31人 (3.3%)	32人 (3.7%)	29人 (6.2%)

応急手当・救急救命の知識と技術 (住民への指導含む)	72人	2.6%	1人 (1.0%)	12人 (3.1%)	23人 (2.4%)	18人 (2.1%)	18人 (3.9%)
その他 (自由記述等)	21人	0.8%	0人 (0.0%)	3人 (0.8%)	9人 (0.9%)	7人 (0.8%)	2人 (0.4%)
合計	5,123人	-	194人	765人	1,859人	1,926人	1,060人

■ 15. 操法大会のあり方について、あなたの考えに最も近いものはどれですか？
(一つだけ選択)

回答項目	回答数	割合	20代以下	30代	40代	50代	60代以上
技術を磨けば大会自体は不要であり、訓練方法や回数を見直すべきである	1,624人	58.2%	41人 (41.8%)	246人 (62.9%)	613人 (64.6%)	507人 (57.9%)	212人 (45.4%)
実戦で確実に扱える、地域防災に直結した技術を磨く場として重要である	616人	22.1%	29人 (29.6%)	63人 (16.1%)	152人 (16.0%)	199人 (22.7%)	172人 (36.8%)
他の分団・団員と技術を高め合い、交流を深める場として活用すべきである	325人	11.6%	15人 (15.3%)	46人 (11.8%)	97人 (10.2%)	106人 (12.1%)	57人 (12.2%)

優勝を目指して、技術の向上と団結力を高めるための重要な活動である	79人	2.8%	8人 (8.2%)	12人 (3.1%)	22人 (2.3%)	24人 (2.7%)	13人 (2.8%)
その他 (自由記述等)	147人	5.3%	5人 (5.1%)	24人 (6.1%)	65人 (6.8%)	39人 (4.5%)	13人 (2.8%)
合計	2,791人	－	98人	391人	949人	875人	467人